

厚生福祉



時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2017
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

連載	2
点検 17年度介護保険法等改正⑩ 小規模通所介護に総量規制	
中央省庁ニュース	8
公的年金、運用益5.1兆円＝株高追い風、 4四半期連続の黒字／特養でのみとり推 進策検討＝医療ニーズへの対応力ギ ほか	
進言(大阪府)	9
特集	10
世界音楽療法大会2017 次世代と共に未来をひらく	
トピックス	13
受動喫煙と働き方改革が喫緊課題 前大臣からの宿題	
インタビュールーム(山梨県)	14
私たちの工夫	15
新内閣の課題	16、17
加藤厚労相 中川環境相	
ニュースフラッシュ	18
小規模分散化を提言／第3子以降に入学 祝い金／家事支援サービスに利用券／保 育士確保へ新宿でPR動画／子宮移植を 検討／健康事業で日本郵便と協定／地域 エネルギーなどで連携協定 ほか	

風船を持つ人

「地域包括ケア」という言葉は今や医療・福祉分野の常識語になりつつある。

半世紀近くこの分野に身を置いている者としては、地域を包括的にケアすることは、かつて制度が成熟していなかった時代を思い描く。

医療であれ福祉であれ、それぞれの家族や地域で丸ごと面倒を見るという側面があった。その時代は人口構成も就業単位も家族単位で、子供も老人も家族や小さな地域の中に吸収されていた。まだ誰もが大学へ進学する時代でもなく、ましてや女性は子育て、介護、家業などすべての縁の下で力持ちを求められる時代でもあったのだ。

当時の家族と介護事業者との関係は、本来家族

社会福祉法人新生会
名誉理事 長・石原美智子



が行わなければならない困難な、例えば排せつ介助であったり嚥下困難な人に対する食事介助であったり、自分で起き上がるのが難しくなった人の離床介助であったりなどを代わりに手伝ってくれる存在であったかと思う。

医療も介護も保険制度が生まれ、時代が進むにつれてあらゆるものが細分化され専門化されたことによつて、あたかもすべての責任も含めて事業者側にあるように錯覚していかないだろうか。

このところ「介護ミス」という表現で離床時の骨折や誤嚥性肺炎での死亡などが裁判沙汰になっている。知人の施設でも高額の損害賠償金を支払った上に、介護を担当した介護者が自分を責めて

退職してしまつたと聞く。

人は皆、運よく長く生きれば何らかの障がいが発生し、誰かの介助を必要とする可能性が高くなる。それぞれの部位や器官が弱つていけば、それが家族であれ他の介護者の場合であれ避けられないこともある。

膝の上で風船が割れたらその人が負けになるという風船ゲームがあるが、団塊の世代が押し寄せてくる高齢社会に向けて、悪意があるわけでもない誰かだけが責められる社会であつていいのだろうか。

地域包括ケアを考えると、社会状況が変化した現代における人生の在り方として単に医療や福祉の分野としてだけではなく、生活すべてにおける役割の分担や責任の所在も含めて考えなければならぬ課題だと思われる。